

## 令和元年度上半期 亀田東児童館事業実施報告書

1 実施した事業

2 自己評価

3 課題と対応

## 1 健全な遊びを通した児童の集団及び個別指導

## ① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2水・土曜日

(4/2、10、5/8、31、6/12、13、7/10、16、8/5、7、9/7、11)

(自己評価)

今年度上期も、幼児向けを第二水に、小学生向けは下校の早い日に工作行事を行った。幼児向け工作では、0～3歳児位までの幼児が参加し、親子で取り組むことが出来る内容で行なった。子どもの発達に親が気付く場面もあり、工作行事を通じて親が子どもの成長の新たな気付きや発見の場となったと感じている。親子で一緒に作る事が子ども達にとって一番嬉しい事のように思えた。また、今年度も作った工作は家でも遊べるものを多く採用した。家庭でも楽しんでもらえたのではないかと思う。年々参加対象が0～2歳と低年齢化しているため、簡単に作れるものを提供した。小学生向けの工作では、子ども達が興味を持てる内容に努めた。季節にちなんだ工作などを行ない、多くの小学生やひまわりクラブからも参加してもらった。幼児、小学生共に物作りの楽しさ、完成出来た時の達成感や完成度、そして家に持ち帰って、家族にも喜んで頂いた様子が伺えたのが何よりだった。

(課題と対応)

内容充実に努め、季節に合ったもの、カレンダーに沿ったものなど子ども達の意見を取り入れて行った。今年度も下校の早い日に設定したのは良かった。他校区のこども達にも別の日に行ったりと臨機応変に対応するよう努めた。今後も学校の日程の確認を怠らないよう注意が必要である。季節物、可愛い物は、ニーズがあるので下半期はそういった物を多く提供していきたい。今後も工作の内容や、PR活動のより効率的な方法を工夫していかなければならない。男女の求める内容が違うのでこども達の意見を大事に今後も取り組んでいきたい。

## ② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(4/22、5/27、6/24、7/29、8/22、9/19)

(自己評価)

こども達に人気のある「ドッジボール」を何回か取り入れた。ひまわりクラブのこども達も大喜びだった。異年齢でチームを組む事で6年生が下の学年のこどもにボールを渡す優しさを見せてくれたり、勝つための作戦をチームで考えたりという事を学ぶ機会のある場になっていると感じた。

(課題と対応)

昨年度からの課題ではあるが、こども達の下校時間が遅くなった事により、児童館側からの参加が多くない。でも「ひまわりクラブ」の参加も大事なため設定日は変えず、そのまま対応していこうと思う。児童館側のこども達には別の形で(大会として)楽し

んでもらえる企画を設定していきたい。

#### シアター（遊戯室）

（5/5、7/26、8/13）

（自己評価）

昨年度の反省を元に、今年度上期もこども達の長期休みのみ行う事にした。普段の月は遊戯室を少しでもこども達の自由遊びに提供した方が、利用として求められている事を実感している。長期休みにひまわり全クラブを招待し、児童館のこども達と一緒に鑑賞してもらった。支援員さん達も喜んで参加してくれた事が何よりだった。今回は中高生にお盆期間「怖いなし」をDVDで提供したら喜んでくれた。

（課題と対応）

今後もリサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。長期休みの時やそれ以外でも、ひまわりさんや親子さん、中高生と今後も相談しながら臨機応変に行うようにしていきたい。幼児さん達の観たいものと小学生の観たいもの、中高生の観たいものは全く違うので、そこはテレビをうまく活用しながら、あらためて「シアター」と名目はつかなくても、こども達のニーズに応えながら、臨機応変に楽しい観たい映画を提供していきたい。

#### ③ アトリエじどうかん（創作活動室）

（4/1、5/7、6/3、7/1、9/2）

（自己評価）

昨年に引き続き、ボランティアの方により「アトリエじどうかん」を開催した。子ども達が楽しみながら美術に触れることが出来たと思う。ボランティアの方がとても一生懸命にイベントを行なってくれて、絵や美術に興味のある子どもたちは毎回参加してくれるまでになった。親子さんの参加も随所にみられた。「夏休みぬりえコンクール」にもアトリエの成果がみられ、みんな素晴らしくレベルも上がり、上達した事を実感した。賞を選ぶのにも一苦労のほど。地域の方達との触れ合いを大切にして、今後も継続して行いたいイベントである。

（課題と対応）

興味がある親子さん達が増えてきている。今後も小学生の参加増に繋げられる工夫や幼児参加の内容等を検討していきたい。子ども達の反応を見ながら新たな「アトリエじどうかん」の形を今後もボランティアの方と作りあげていきたい。

#### ④ 各種イベント

- ・英語であそぼう（4/4）
- ・育児イベント/赤ずきん（4/18）
- ・亀田東児童館開館11周年記念祭（4/21）
- ・育児イベント/ベビーマッサージ（5/23）
- ・ひよこ広場/ミニ運動会（5/29）
- ・中学生学習支援（KAMEじゅく）5/27～6/2
- ・親子であそぼう！ドッジボール大会（6/16）
- ・育児イベント/劇団たんぽぽ（6/21）
- ・ひよこ広場/七夕のつどい（7/3）

活動が広まっていくにあたり、段々と職員のシフトの調整が難しくなっている。児童館外の活動が増えることは職員の負担も増えるということである。対応として、臨時アルバイトを検討していきたい。

## 2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

上半期は、中高生の来館者が多くなかった。中高生向けイベントを考える際には、どうしても試験、部活動の試合、練習などで来館が遠のく事は今後も考えられる。居場所として児童館を求めている中高生がいるというのも事実。なので、下期以降も継続して中高生が来館しやすい環境、使用しやすい環境を模索しながら整えていきたい。

(課題と対応)

中高生の来館が部活動や塾、大会等でイベント日程を決めても来られないケースが多々あるので日程を決めず、〇〇週間という形で下期も取り組んでいきたい。

「学習支援」や「スポーツ大会」等全てのイベントも週間単位で行ってきたい。

他に月に2回、中学生の貸切日を決め「遊戯室」の全面あそびを提供しているが、周知が少ないのか、参加は多くみられなかった。今後も中学生の「居場所」を具体的に作っていく必要があると感じているので続けていきたい。

### ⑥ 学習支援 (中学生)

(自己評価)

発足して3年目になる。長期休みは中学生が来館してくれるが、普段はなかなか来れない。でも忘れず遊びに来てくれる中学生のために何が出来るか今後も考え、リサーチを忘れず、これからも持続して中学生にとっての勉強やあそびを楽しめる居場所として続けていきたい。上期の参加者は多くない。累計でも20人位である。でも普段でも宿題やテキストを広げ、勉強する中学生の姿は見受けられる。設定日にこだわらず、そんな居場所の提供を今後も見守っていきたい。

(課題と対応)

下期も上記にも書いたが、試験日を踏まえ、部活動停止日のリサーチをしっかり押さえながら、冬場以外に日にちではなく、「学習支援」週間を設定し、学生ボランティアと職員で対応していきたい。勉強の居場所としても、あきらめず、定着を進めていけるように努力していきたい。下期も「学習支援」などのPRチラシを貼って宣伝活動に力をいれて周知してもらえるよう努力していきたい。小学校の時とは違って段々と塾への通いや忙しい日々を送る中学生に下期もエールを送ってきたい。

## 3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

### ① こども会議 (創作活動室)

(4/13、5/11、6/8、7/13、9/14)

(自己評価)

今年度で発足して3年目を迎えた。中心に頑張ったのは新6年生。毎回の「こども会議」に積極的に参加し、意見を活発に言って「やる気」をみせてくれていた。

イベント運営も「こどもクラブ」無しでは、厳しいと思わせるほどの活躍を随所にみせ

- ・七夕の集い（小学生）（7/5）
- ・育児イベント/リトミックあそび（7/19）
- ・囲碁大会（7/20）
- ・夏休みお楽しみ会/国際音楽エンターテイメント（7/25）
- ・夏休みシアター（7/26）
- ・ぬりえコンクール（7/22～8/25）
- ・なつまつり（7/28） ・小学生学習支援/KAMEじゅく（7/25、30）
- ・夏休みイベント/GATAKEN（8/2）
- ・中学生シアター/DVD鑑賞（8/10～17）
- ・夏休み工作ランド（8/5） ・お盆シアター（8/13）
- ・ポッチャであそぼう（8/19）
- ・亀田地区公民館事業出前講座/家庭教育講演会（9/5）
- ・育児イベント/カラフルエプロン（9/20）
- ・中学生学習支援（KAMEじゅく）9/9～15
- ・カードゲーム大会（9/21）
- ・小学生ドッジボール大会（9/26）
- ・秋休みお楽しみ会/劇団たんぼぼ（9/27）

（自己評価）

毎年恒例となっているイベントに加え地域一体となった、なつまつりは、亀田東小学校区コミュニティ協議会の地域との連携、地域、学生、子ども達のボランティアの支えもあり盛大に行うことが出来、過去最高の400人を超える参加者を達成した。地域と共にある児童館を目指し、その目標が毎年すこしずつ色濃く体现されていく喜びを職員一同実感することが出来た。下期も地域の子ども、地域の人たちと共にある児童館を目指し運営していきたい。

（課題と対応）

イベントを企画するにあたり、より多くの子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整している。毎月、毎日、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという時もある。上期は、「ドッジボール人気」にあやかり毎月交互に、低学年と高学年に分けて「ドッジボール大会」を行ってみた。大会以外でも「ゆうぎしつであそぼう」にも取り入れて遊んでみた。こども達のニーズにアンテナを張り、今後も楽しい企画を考えていきたい。

#### ⑤ いどうじどうかん

（6/3、16、7/8、26、29、8/4、5、8、9、19、20、23、9/9、29）

（自己評価）今年度上期は、区内ひまわりクラブ、東小など19回出向き「いどうじどうかん」を行った。1062名の方達と触れ合う事が出来た。昨年よりも依頼件数が増し、活動が増えたことは、江南区全域に児童館の役割を果たす事とPRが出来るため、非常に嬉しく感じている。新しい移動先も増えている事が有難い。地域との連携を大切に、今後も移動先を開拓していきたい。

（課題と対応）

てくれ、頼もしい限りである。こういう子ども達を育成し、今後の中学、高校、大学、社会にと繋がっていける人材に成長してほしいと願って、今後も一緒にイベントを行っていききたい。大事な挨拶や人と接するコミュニケーション能力を養う場にしてほしい。

(課題と対応)

ボランティアメンバーの中にも意識の持ち方がまだまだ様々で、約束を守ろうと一生懸命、努力する子もいるが、中にはイベントのおいしい所だけ参加し、準備には来ないという残念な意識の子もまだ若干いた。子ども達の考えや目線を中心にしたイベント運営に切り替えていくべく、大切な意見の場として今後も持っていきたい。そこには当然イベント内容だけではなく、遊びやゲーム、シアターなどなど、今の子ども達がやってみたい事、観たい映画、古き良き遊びの良さを職員が伝えられる、そんな場に今後もしていきたい。

#### 4 子育て家庭の支援

##### ①ひよこ広場 (毎週水曜日 10時30分～)

(自己評価)

今年度上期は「ひよこ広場」の参加者は多くなかった。理由としては、団体行動を苦手とする幼児が増えたように思われる。むしろ自由行動で遊ばせたいというお母さんの考えが強調されてたように感じた。特徴としては、普段の「ひよこ広場」に参加するより、自由に遊戯室で遊びたい子どもの方が多かったように感じられた。でも季節イベントには多くの参加者がみられ、ママ友同士、連絡し合って参加するケースが増えている。下期も保護者の声を聴きながら、楽しい取り組みを行っていききたい。

(課題と対応)

イベント参加人数が増えるにあたって、駐車場の問題やトラブル、事故等に一層注意を細やかにしていかなければいけない。ひまわりクラブなど近隣の施設に協力を頂きながら駐車場の問題に取り組んできた。もう一点は、企画が楽しくても、子ども同士のケガにつながっていくようであれば意味をなさないの、その点も職員間で連携を密にしていかなければいけないのも必須である。(保護者のマナーがいいのがとても有難かった。) 普段のお母さん達との会話を大切に、そこから生まれる悩みや相談相手となり、そして必要であれば専門機関に繋げていきたい。(そこまでではなく、ただ聞いてほしいというのがほとんどである。) 会話の中からのアイデアや要望を拾っていききたい。下期もあらたな常連さんをつくる努力をしていかなければいけない。笑顔を忘れずに迎えていきたい。夕方、幼稚園、保育園帰りの親子さんの来館が増えているので、小中学生との折り合いを危険の無いよう、つけていかなければいけない。

##### ④子育てイベント (毎月1回)

(自己評価)

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら毎月行ってきた。まずは上期を無事故で終えた事に安堵している。お母さん達と子どもの触れ合いの場になったり、お母さんのリラックスの場になったりと色々な意味で好評の場であった。お母さんや幼児さん達にも喜ばれていた。人形劇や親子のふれあい遊びなどを提供。上期最後の9月には、「亀田地区公民館」との共催で「出前講座/ゆたぴー先生のイヤイヤ期の乗り越え方」を行った。下期も学生の発表の場を提供できる事や親子さんからのニーズの声が高かった

プログラムを企画していきたい。今年度上期は鑑賞型のイベントを多く取り入れた事によって、近隣の保育園、幼稚園からの参加も多くみられた。

(課題と対応)

親子で楽しめる工夫と安全面を考慮しながら楽しい児童館イベントを今後も企画していきたい。そして、色々な事業コラボも検討していきたい。地域の保育園やこども園が利用や参加来館する事によって、お母さん達に色々な保育園状況を見てもらう事ができている。入園を考えているお母さん達には「実際の保育園の様子が見れて有難い。」との声も頂いている。今後も鑑賞型イベントの取り組みを行ってしていきたい。

## 5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度上期は亀田東児童館第19回議会を開催した。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南区社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とし、委員8名で行えた。上期の協議内容はおおむね例年通りに収支報告、年間行事予定、移動児童館の報告や利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館を一緒に広め、盛り上げてくださることが心強かった。そして、地域密着の児童館を目指し、下期も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営をさらにより良くしていきたいと思う。

## 総括・評価

上期も親子さんの利用が若干増えたことが、私たちにとって何よりの励みとなった。ただ、小学生、中高生の利用が減になっている事は下期の課題としても受け止めていかなければならない。しかし、決して職員の努力が足りなかった訳ではないと感じている。半年間地域の子ども達やその保護者に児童館を利用してもらう中で、私達職員の課題を常に皆で話し合い、視点を同じにして業務をチームで頑張ってきた事は保護者の方に理解や共有をして頂けたと思っている。だからといって反省点や改善点が無いわけではない。日々の業務やイベントを通じて、その都度反省・改善をし、それを次に活かしていくことがより良い児童館を作る上で大切だと私たち職員が分かっているからである。その姿勢は続けていく決意である。利用して頂いている地域のみなさん、保護者、行政、学校、保育園等、本当に皆さんからの応援があればこそと感謝の思いを強くしている。今後も皆さんと共に歩む「亀田東児童館」であり、地域の拠点となれるよう努力をし、日々の業務を大切に、地域の人たちや子ども達に、一步一步寄り添えられる児童館を下期も作りあげていきたいと思う。

## 令和元年度下半期 亀田東児童館事業実施報告書

## 1 実施した事業

## 2 自己評価

## 3 課題と対応

## 1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

## ① つくって遊ぼう！（創作活動室） 第2水・随時

(10/9、9、11/5、13、12/11、24、1/7、8、2/1、12)

(自己評価)

今年度下期も、幼児向けを第二水に、小学生向けは下校の早い日に工作行事を行った。幼児向け工作では、0～3歳児位までの幼児が参加し、親子で取り組むことが出来る内容で行なった。子どもの発達に親が気付く場面もあり、工作行事を通じて親が子どもの成長の新たな気付きや発見の場となったと感じている。親子で一緒に作る事が子ども達にとって一番嬉しい事のように思えた。また、今年度も作った工作は家でも遊べるものを多く採用した。家庭でも楽しんでもらえたのではないかと思う。年々参加対象が低年齢化しているため、簡単に作れるものを提供した。小学生向けの工作では、子ども達が興味を持てる内容に努めた。季節にちなんだ工作などを行ない、多くの小学生やひまわりクラブからも参加してもらった。幼児、小学生共に物作りの楽しさ、完成出来た時の達成感や完成度、そして家に持ち帰って、家族にも喜んで頂いた様子が伺えたのが何よりだった。

(課題と対応)

内容充実に努め、季節に合ったもの、カレンダーに沿ったものなど子ども達の意見を取り入れて行った。下期も下校の早い日に設定したのは良かった。他校区のこども達にも別の日に行ったりと臨機応変に対応するよう努めた。今後も学校の日程の確認を怠らないよう注意が必要である。季節物、可愛い物は、ニーズがあるので下期はそういった物を多く提供してきた。今後も工作の内容や、PR活動のより効率的な方法を工夫していかなければならない。男女の求める内容が違うのでこども達の意見を大事に今後も取り組んでいきたい。

## ② 遊戯室で遊ぼう！（遊戯室）

(10/28、11/25、12/27、1/27、2/21)

(自己評価)

下期は「大縄跳び」で、8の字飛びの挑戦や雪が降らなかったので「新聞玉雪合戦」など運動要素を取り入れた遊びを行った。できない事に挑戦したり、チームでの団結力を考えたり、1人ではなく皆で楽しめるような内容を提供した。児童館とひまわりクラブとの合同で行う意義や楽しさを改めて感じる事が出来た。

(課題と対応)

昨年度からの課題ではあるが、こども達の下校時間が遅くなった事により、児童館側からの参加が多くない。でも「ひまわりクラブ」の参加も大事なので設定日は変えず、そのまま対応していこうと思う。

## シアター（遊戯室）

(1/6)

(自己評価)

昨年度の反省を元に、下期もこども達の長期休みのみ行う事にしたが、3月は臨時休館になってしまったため、1回の開催となってしまった。

普段の月は遊戯室を少しでもこども達の自由遊びに提供した方が、利用として求められている事を実感している。今回は「ふゆまつり」にもTVではあるが、「トイストーリー4」を鑑賞してもらった。幼児親子から小学生まで息抜きの場として多くのこども達が喜んでくれた。

(課題と対応)

今後もしサーチしながら、子ども達の楽しみの1つとなれば良いと考えている。長期休みの時やそれ以外でも、ひまわりさんや親子さん、中高生と今後も相談しながら臨機応変に行うようにしていきたい。幼児さん達の観たいものと小学生の観たいもの、中高生の観たいものは全く違うので、そこはテレビをうまく活用しながら、あらためて「シアター」と名目はつかなくても、こども達のニーズに応えながら、臨機応変に楽しい観たい映画を次年度も提供していきたい。

## ③ アトリエじどうかん（創作活動室）

(10/7、12/2、1/7、2/3)

(自己評価)

上期に引き続き、ボランティアの方により「アトリエじどうかん」を開催した。子ども達が楽しみながら美術に触れることが出来たと思う。ボランティアの方がとても一生懸命にイベントを行なってきて、絵や美術に興味のある子どもたちは毎回参加してくれるまでになった。親子さんの参加も随所にみられた。「冬休みぬりえコンクール」にもアトリエの成果がみられ、益々みんな素晴らしくレベルも上がり、上達した事を実感した。賞を選ぶのにも一苦勞。幼児親子の参加が増えている事が今後の小学生増加に繋がっていく事を期待したい。地域の方達との触れ合いを大切にして、今後も継続して行いたいイベントである。

(課題と対応)

興味がある親子さん達が増えてきているので、今後も小学生の参加増に繋がられる工夫や幼児参加の内容等を検討していきたい。子ども達の反応を見ながら新たな「アトリエじどうかん」の形を今後もボランティアの方と作りあげていきたい。こども達の「絵を塗る」という事への興味と上達の底上げの一助になればと願っている。

## ④ 各種イベント

- ・10/8（火）ドッジボール大会（4～6年）
- ・10/10（木）カーリングであそぼう！（亀田総合体育館）
- ・10/27（木）育児イベント（ベビーマッサージ）
- ・10/24～31 小学生ハロウィンクイズラリー週間
- ・10/30（水）ひよこ広場（ハロウィンパーティー）



- ・11/1～7 KAMEじゅく週(中)・11/14、15 亀田中職場体験(ピヨ中交流会)
- ・11/17(日)音楽会・11/15(金)なかよしコンサート(県立大)
- ・12/18(水)ひよこ広場(クリスマス会)・12/23(月)小学生クリスマス会
- ・12/25(水)卓球大会・12/26(木)育児イベント(親子ヨガ)
- ・1/6(月)冬休み工作(亀田縞ミサンガ)1/17(金)育児イベント(リトミック)
- ・1/18(土)新春お楽しみ会・1/29(水)ひよこ広場(豆まき)
- ・2/13(木)育児イベント(親子で運動あそび)・2/16(日)ふゆまつり
- ・2/26(水)ひよこ広場(ひなまつり)

(自己評価)

毎年恒例となっているイベントに加え地域一体となった、「ふゆまつり」は亀田東小学校区コミュニティ協議会の地域との連携、地域、学生、子ども達のボランティアの支えもあり盛大に行うことが出来、320人を超える参加者を達成した。地域と共にある児童館を目指し、その目標が毎年すこしずつ色濃く体现されていく喜びを職員一同実感することが出来た。次年度も地域の子ども、地域の人たちと共にある児童館を目指し運営していきたい。

(課題と対応)

イベントを企画するにあたり、より多くの子ども達から参加してもらいたいという気持ちで内容を考え、日程を調整している。毎月、毎日、日々職員間で話し合い、子ども達の意見を取り入れながらイベントを行っているが、自由来館ゆえ参加者数となって成果が表れないという時もある。下期は、「ハロウィン」や「クリスマス」など人気イベントを趣向をこらして行った。「ハロウィン」は普段来れないこどもにも楽しみを与えたいと、1週間毎日参加してもらえようクイズラリーという形で提供したら、反響が良かった。区内の他小学生や保育園などに通う幼児さんなど多くのこども達が参加できた事が何よりだった。「亀田東ひまわりクラブ」には「移動児童館」として、工作などを提供し、こども達と触れ合う事ができた。「クリスマス会」はひまわりさんを招待し、多くの小学生たちで楽しむことができた。次年度もこども達のニーズにアンテナを張り、楽しい企画、そして校区外のこども達も参加できるような工夫を考えていきたい。

#### ⑤ いどうじどうかん

(10/11、16、20、27、11/5、25、12/24、26)

(自己評価)今年度下期は、区内ひまわりクラブ、東小、横越小、早通小、保育園など8回出向き「いどうじどうかん」を行った。518名の方達と触れ合う事が出来た。昨年よりも依頼件数が増し、活動が増えたことは、江南区全域に児童館の役割を果たす事とPRが出来るため、非常に嬉しく感じている。だがどうしても冬場は移動が難しいため依頼が少なくなるのは否めない。(今年は雪がほとんど降らなかったため、依頼が無かったのが残念でもったいなかった。)新しい移動先も増えている事が有難い。地域との連携を大切に、今後も移動先を開拓していきたい。

(課題と対応)

活動が広まっていくにあたり、段々と職員のシフトの調整が難しくなっている。児童館外の活動が増えることは職員の負担も増えるということである。

次年度は「臨時アルバイト」を検討する予定だったが、とりあえず、「実習生」で対応

を考えていきたい。また様子をみながら今後検討していく。

## 2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

### (自己評価)

下期は、今回初の試みとして「亀田中職場体験」で親子さんとの交流の場を設けた。「ピヨ中交流会」と名付け、工作と手遊びを一緒に行う中で、保護者との会話や乳幼児との触れ合いをスムーズに行う事が出来た。こどもも保護者にも喜んでもらえて何よりだったし、来てくれた中学生にとっても良い経験になった事と思う。中学生が試験終了後や部活の休みの日に来館がみられ、2月には児童館卒業の高校生が来館。とても嬉しく、寂しい限りだった。最後の3月もいっぱい遊びに来る予定だったが、「コロナウィルス対策」で臨時休館となってしまったのが、残念の一言に尽きた。中高生向けイベントを考える際には、どうしても試験、部活動の試合、練習などで来館が遠のく事は今後も考えられる。居場所として児童館を求めている中高生がいるというのも事実。なので、次年度も継続して中高生が来館しやすい環境、利用しやすい環境を模索しながら整えていきたい。

### (課題と対応)

中高生の来館が部活動や塾、大会等でイベント日程を決めても来られないケースが多々あるので日程を決めず、〇〇週間という形で次年度も取り組んでいきたい。

「学習支援」や「スポーツ大会」等全てのイベントも週間単位で行っていきたい。他に月に2回、中学生の貸切日を決め「遊戯室」の全面あそびを提供しているが、周知が少ないと感じているので次年度は中学校の協力を得て、学校にもポスターなどのPR活動を積極的にお願いしていきたい。今後も中学生の「居場所」を具体的に作っていく必要があると感じているので続けていきたい。

## ⑥ 学習支援（中学生）

### (自己評価)

発足して3年目になる。長期休みは中学生が来館してくれるが、普段はなかなか来れない。でも忘れず遊びに来てくれる中学生のために何が出来るか今後も考え、リサーチを忘れず、これからも持続して中学生にとっての勉強やあそびを楽しめる居場所として続けていきたい。下期の参加者は多くない。累計でも10人位である。でも普段でも宿題やテキストを広げ、勉強する中学生の姿は見受けられる。設定日にこだわらず、そんな居場所の提供を今後も見守っていきたい。

### (課題と対応)

上記にも書いたが、試験日を踏まえ、部活動停止日のリサーチをしっかり押さえながら、冬場以外に日にちではなく、「学習支援」週間を設定し、学生ボランティアと職員で対応していきたい。勉強の居場所としても、あきらめず、定着を進めていけるように努力していきたい。次年度も「学習支援」などのPRチラシを学校などに貼ってもらい、宣伝活動に力をいれて周知してもらえよう努力していきたい。小学校の時とは違って段々と塾への通いや忙しい日々を送る中学生に次年度もエールを送ってきたい。

### 3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

#### ① こども会議（創作活動室）

（10/12、11/9、12/14、1/11、2/8）

（自己評価）

イベント運営も「こどもクラブ」無しでは、厳しいと思わせるほどの活躍を随所にみせてくれ、頼もしい限りである。こういう子ども達を育成し、今後の中学、高校、大学、社会にと繋がっていける人材に成長してほしいと願って、今後も一緒にイベントを行っていききたい。「ふゆまつり」での集大成では地域の方達や行政の方、保護者から「こどもクラブ」1人1人の活躍に驚きとお褒めの言葉を多く頂いた。それをこども達に伝えたら、嬉しそうな満面の笑顔が印象的だった。今後も大事な挨拶や人と接するコミュニケーション能力を養う場にしてほしい。

（課題と対応）

子ども達の考えや目線を中心にしたイベント運営に切り替えていくべく、大切な意見の場として今後も持っていきたい。そこには当然イベント内容だけではなく、パソコンを利用して「PR チラシ」の作成などを教えていきたい。他に遊びやゲーム、シアターなどなど、今の子ども達がやってみたい事、観たい映画、古き良き遊びの良さを職員が伝えられる、そんな場に今後もしていきたい。

### 4 子育て家庭の支援

#### ①ひよこ広場（毎週水曜日10時30分～）

（自己評価）

下期は「ハロウィン」や「クリスマス会」など参加しやすい季節イベントには多くの親子さんが参加。保育園やこども園、幼稚園と入園の時期を迎えるにあたって、団体行動に慣れさせるべく、普段の「ひよこ広場」にも多くの親子さんが参加してくれた。保護者の就職活動も盛んになってきた様子や相談、困った事などの話なども多くみられた。次年度も保護者の声を聴きながら、楽しい取り組みを行っていききたい。

（課題と対応）

参加人数が増えるにあたって、駐車場の問題やトラブル、事故等に一層注意を細やかにしていかなければいけない。ひまわりクラブなど近隣の施設に協力を頂きながら駐車場の問題に取り組んできた。もう一点は、企画が楽しくても、子ども同士のケガにつながっていくようであれば意味をなさないの、その点も職員間で連携を密にしていかなければいけないのも必須である。（保護者のマナーがいいのがとても有難かった。）普段のお母さん達との会話を大切に、そこから生まれる悩みや相談相手となり、そして必要であれば専門機関に繋げていきたい。（そこまでではなく、ただ聞いてほしいというのがほとんどである。）会話の中からのアイデアや要望を拾っていききたい。次年度を迎えるにあたり、また一から、あらたな常連さんをつくる努力をしていかなければいけない。笑顔を忘れずに迎えていきたい。夕方、幼稚園、保育園帰りの親子さんの来館が増えているので、小中学生との折り合いを危険の無いよう、つけていかなければいけない。

## ② 子育てイベント（毎月1回）

### （自己評価）

お母さん達の声やニーズをリサーチしながら毎月行ってきた。まずは下期を無事故で終えた事に安堵している。お母さん達と子どもの触れ合いの場になったり、お母さんのリラクスの場になったりと色々な意味で好評の場であった。お母さんや幼児さん達にも喜ばれていた。リトミックや親子のふれあい遊びなどを提供。下期は寒い時期でもある事から、体を動かし温まる要素を取り入れたものを多く行った。

### （課題と対応）

親子で楽しめる工夫と安全面を考慮しながら楽しい児童館イベントを今後も企画していきたい。そして、色々な事業コラボも検討していきたい。地域の保育園やこども園が利用や参加来館する事によって、お母さん達に色々な保育園状況を見てもらう事ができている。入園を考えているお母さん達には「実際の保育園の様子がみれて有難い。」との声も頂いている。今後も鑑賞型や色々な要素を取り入れたイベントの取り組みを行っていきたい。

## 5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度下期は亀田東児童館第20回運営協議会を開催した。亀田東小学校長をはじめ、亀田中学校長、亀田中学校地域教育コーディネーター、亀田東小学校区コミュニティ協議会会長、江南区社会福祉協議会、保護司、指導保育士、児童委員の方々を委員とし、委員7名で行えた。上期の協議内容はおおむね例年通りに年間行事予定、移動児童館の報告や利用者推移について議論され忌憚のない意見を出していただいた。そして何よりも、委員の方たちが児童館の必要性を理解していただき、児童館と一緒に広め、盛り上げてくださることが心強かった。そして、地域密着の児童館を目指し、次年度も、より良い児童館にして行くために御尽力いただけるよう、児童館運営を考え、相談し合っていきたいと願っている。

## 総括・評価

下期も親子さんの利用が若干増えたことが、私たちにとって何よりの励みとなった。ただ、小学生、中高生の利用が減になっている事は次年度の課題としても受け止めていかなければならない。しかし、決して職員の努力が足りなかった訳ではないと感じている。年間地域の子ども達やその保護者に児童館を利用してもらう中で、私達職員の課題を常に皆で話し合い、視点を同じにして業務をチームで頑張ってきた事は保護者の方に理解や共有をして頂けたと思っている。だからといって反省点や改善点が無いわけではない。日々の業務やイベントを通じて、その都度反省・改善をし、それを次に活かしていくことがより良い児童館を作る上で大切だと私たち職員が分かっているからである。その姿勢は続けていく決意である。利用して頂いている地域のみなさん、保護者、行政、学校、保育園等、本当に皆さんからの応援があればこそと感謝の思いを強くしている。今後も皆さんと共に歩む「亀田東児童館」であり、地域の拠点となれるよう努力をし、日々の業務を大切に、地域の人たちや子ども達に、一步一步寄り添えられる児童館を次年度も作りあげていきたいと思う。今、コロナウイルス感染拡大状況により、次年度

の運営状況が不安で、見えないところはあるが、行政と一緒に連携を取り合い、子どもたちにとって、居場所づくりの最善策に心がけていきたい。